

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2014年7月4日(金)1限 実施
前期②考査
千葉県立長生高等学校 第3学年 全組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように5桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3年D組1番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1~問6)に答えよ。(配点 16)

プラトンは、師ソクラテスの死の意味をアテネ市民に訴えるとともに、師の精神をうけつぎ、さらに発展させて (a) イデア論 を構築した。イデア論はプラトンの思想の中心であるだけでなく、(b) 長くヨーロッパ哲学に影響を与えた。

プラトンは、たえず変化する感覚的経験の世界を超えて、永遠に変わることのないイデアの世界が存在すると考えた。たとえば、数学者が黒板に描いた不完全な図形を使って、その本質を論ずるのは、完全な三角形の姿(三角形のイデア)が彼の眼によってとらえられているからである。このように三角形のイデアに照らして、私たちも現実に見える不完全な三角形を三角形そのものと見なすのである。イデアとは、理性によってとらえられる【 A 】を意味している。

また、プラトンは、人びとは感覚によって見えるものだけを真実だと思っているが、理性によってとらえられるイデアのみが真の实在であって、生成変化の世界は影にすぎないと考えた。それは、ちょうど洞窟につながれた [1] が壁に映る影を唯一の实在だと思いこんでいるようなものである(洞窟の比喩)。感覚にまどわされず、理性の眼をもって事物の永遠不変の姿を見るためには、洞窟を出て太陽の光に照らされなくてはならないと説いた。

ではなぜ人間の理性はイデアをとらえることができるのであろうか。プラトンによれば、【 B 】しかし、もろもろの美しいものや善い行為の経験をきっかけにして、魂はイデア界を「恋い慕い、想い起こす」。つまり、(c) エロースとしてのイデアへの憧れ を原動力にした [2] によってイデアは認識される。プラトンは、最高のイデア(イデアのイデア)を [3] とよび、これを認識できる「カロカガティアの人」こそ幸福であると考えた。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [3] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[1]

① 人形	② 囚人
③ 魂	④ 幽霊

[2]

① ピュシス	② アナムネーシス
③ ジェネシス	④ エートス

[3]

① 真のイデア	② 聖のイデア
③ 美のイデア	④ 善のイデア

問2 下線部(a)に関連して、イデアという言葉のもととなった、idein という語の本来の意味として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[4]

① 愛する ② 調べる ③ 見る ④ 諦める

- 問3 下線部(b) に関して、プラトンの学園についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[5]
- ① ヘレニズム時代にわたって 300 年存続し、学園では質素な共同生活が行われていたという。
 - ② プラトンはアテナイ郊外の聖なる森の中を逍遥しながら、青年の教育にあたったといわれる。
 - ③ プラトンはアテナイのアゴラにある、ストア・ポイキレという列柱廊で教授していたといわれる。
 - ④ 900 年間にわたって存続し、学校の入り口の門には「幾何学を知らぬ者、くぐるべからず」との額が掲げられていたという。

- 問4 下線部(c) に関して、エロースについて描かれたプラトンの対話篇として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[6]
- ① 饗宴 ② パイドン ③ ソクラテスの弁明 ④ クリトン

- 問5 文中の空欄【 A 】 に入る文として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]
- ① 事物の真の「かたち」
 - ② その理想的な「姿」
 - ③ 事物をそうあらしめている永遠不変の「本質」
 - ④ 感覚を通して現前する「表象」

- 問6 次の文中の空欄【 B 】 に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]
- ① 人間の魂はもともとイデア界に住んでいたが、いまは肉体という牢獄につながれ感覚によってさまたげられて、イデアの何であるかを忘れてしまっている。
 - ② 人間の魂はもともとイデア界に住んでいたが、いまは肉体も魂の影響を受けてイデア界の一員となり、すでに現象界を去っている。
 - ③ 人間はもともと現象界の住人であり、魂がイデア界に参入するためには信仰の力が必要である。
 - ④ 人間はもともと現象界の住人であり、肉体が滅んだときにはじめて魂はイデアの世界を認識することができる。

第2問 かつてセンター試験に出題された下の問い（問1～問7）に答えよ。（配点 30）

問1 次の文中の[9]に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

【2000年本試験】

ソクラテスが問いを發したのは、倫理を専ら社会的な規制とみなす人々に対してである。ソクラテスは勇気や正義などについて、それらは一体「何であるのか」と問うていく。その問答を通じて、対話者たちの生き方がさらけ出されることになる。プラトンが描く[9]の類比は、ソクラテスが問うたものが人間のあり方のよさであるとともに、国制のよさでもあることを物語っている。

- ① 家と国
- ② 魂と国家
- ③ 人間のアイデアと善のアイデア
- ④ 一人の利益と全体の利益。

問2 プラトンが説いた、人間の魂にかかわる四つの徳についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[10] 【1999年追試験】

- ① 魂の三部分にかかわる勇気・節制・正義の三つの徳と、これらの徳が調和した状態である知恵の徳。
- ② 魂の三部分にかかわる節制・正義・知恵の三つの徳と、これらの徳が調和した状態である勇気の徳。
- ③ 魂の三部分にかかわる正義・知恵・勇気の三つの徳と、これらの徳が調和した状態である節制の徳。
- ④ 魂の三部分にかかわる知恵・勇気・節制の三つの徳と、これらの徳が調和した状態である正義の徳。

問3 プラトンは、魂の三部分の関係に基づいて国家のあり方を説明した。彼の国家についての思想として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[11] 【2005年本試験】

- ① 一人の王の統治は、知恵を愛する王による統治であっても、つねに独裁制に陥る危険を孕(はら)んでいる。それゆえ防衛者階級も生産者階級も知恵・勇気・節制を身につけ、民主的に政治を行う共和制において正義が実現する。
- ② 知恵を愛する者が王になることも、王が知恵を愛するようになることも、いずれも現実的には難しい。知恵を愛する者が、勇気を身につけた防衛者階級と節制を身につけた生産者階級とを統治するとき、正義が実現する。
- ③ 統治者階級は、知恵を身につけ、防衛者階級を支配し、防衛者階級は、勇気を身につけ、生産者階級を支配する。さらに生産者階級が防衛者階級に従い節制を身につけたとき、国家の三部分に調和が生まれ、正義が実現する。
- ④ 知恵を身につけた統治者階級が、防衛者階級に対しては臆病と無謀を避け勇気を身につけるよう習慣づけ、生産者階級に対しては放縦と鈍感を避け節制を身につけるよう習慣づける。このようなときに正義が実現する。

問4 プラトンのいう「愛(エロース)」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[12] 【2005年追試験】

- ① 究極的な一者から人間に与えられた愛のことであり、究極的な一者に全面的に帰依する心情のことである。
- ② 異性をひたすら精神的にのみ愛し肉体的な結びつきは徹底的に排そうとする、清浄な情熱のことである。
- ③ 精神的な価値観を共有する者に対して感じる友情のことであり、友のためには死をも辞さない心情のことである。
- ④ 個々の美しいものや善いものを超えて、善美そのものを追い求めようとする情熱のことである。

問5 プラトンは当時の民主制を、正義を破壊する墮落した政治形態とみなした。プラトンの正義についての考えを説明した記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[13] 【2001年本試験】

- ① 人間の魂は理性・気概・欲望の三つの部分からなり、これら魂の各部分が相互に調和を保つなら、個人にとっての正義の徳が実現される。
- ② 国家には統治者・防衛者・生産者という三つの階級があり、人間はそれぞれの資質にふさわしい階級に属するべきである。
- ③ 国家の正義と個人の正義は、階級の違いを越えて相互に人間を結びつける契約によって、調和が保たれる。
- ④ 哲人・軍人・庶民がそれぞれ知恵・勇気・節制いずれかの徳を発揮しつつ相互に調和し合うことによって、理想国家が実現される。

問6 プラトンの考え方に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[14] 【2010年本試験】

- ① アイデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉えることができる。
- ② アイデアは個物に内在する真の本質であり、感覚ではなく、知性だけがそれを捉えることができる。
- ③ アイデアは個物に内在する真の本質であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。
- ④ アイデアは生成消滅しない真の存在であり、感覚は知性の指導のもとにそれを捉えることができる。

問7 文章中の【 A 】・【 B 】に入れるのに最も適切な組合せを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。[15]【2007年本試験】

怒りそれ自体を悪としない見方も存在する。プラトンの魂の三部分説によると、怒りの座たる【 A 】的部分は、適切な教育を受け、【 B 】的部分の指導に従えば、徳ある行為に役立つとされる。また、儒家の書『中庸』でも、怒りなどの感情が節度にかなった形で他人に向けて発せられるときには、正しいあり方として肯定された。このように怒りは、対人関係という局面において、思慮深く適正に発せられる場合、高く評価される。

- ① A 理性 B 気概
- ② A 理性 B 欲望
- ③ A 気概 B 理性
- ④ A 気概 B 欲望
- ⑤ A 欲望 B 理性
- ⑥ A 欲望 B 気概

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問10）に答えよ。（配点 30）

アリストテレスは、アカデメイアでプラトンに学び、はじめ師の哲学を継承したが、やがて『[16]』などをあらわしてイデア論を批判し、現実を重視する思想を展開するようになった。アリストテレスは、現象すなわち具体的な個々の事物のなかに、むしろプラトンのいうイデアが [17] すると考えた。たとえば、美のイデアはそれ自体で独立して存在するのではなく、美しい人や美しい花のなかにあつて、それらを美しくさせている本質なのである。

アリストテレスは、イデアに相当するこの本質を [18]、素材を質料（ヒュレー）とよび、(a) 真の实在は現実の個物にほかならず、それは [18] と質料から成っているとした。

アリストテレスの現実主義的な立場は、人間としての生き方についても見られる。彼は、幸福こそがあらゆる人間の最終目標であり、最高善であるとした。では、その幸福とは何か。

彼によれば、人間を人間たらしめているのは、人間に固有のはたらきである理性であるから、理性の活動を完成することが最高の幸福であり、最高善である。人間の生活は享樂的生活・政治的生活・[19] 的生活に分けられ、それぞれに快樂・[20]・知恵という善が対応する。そのなかでは、真理を探究する [19] 的生活が、「最善なるもの（理性）がそれに固有な徳を備えてする活動」としてもっとも望ましいものである。

さらに、アリストテレスは『[21]』のなかで、人間の魂を理性的な領域と感情・欲望の領域との二つに分け、それに対応させて、徳を (c) 知性的徳 と倫理的徳に分類した。知性的徳は観想的生活に即した徳であり、倫理的徳は、知性的徳に導かれた正しい行為のくり返しによって習慣づけられる習性（エートス）的徳である。感情・欲望とつながりをもつ日常生活においては、過度と不足の両極端を避けて、その (d) 中庸 を選ぶことをくり返し、倫理的徳を形成していくことが求められる。

彼は、たくさんの倫理的徳のなかでも、(e) 正義 と友愛を重視した。ポリスにおける共同生活は、理性と情意の二つの面でかたく結びつけられることで成り立つ。そして、共同生活を理性で結びつける原理が正義であり、情意で結びつける原理が友愛なのである。

問1 文章中の空欄 [16] ～ [21] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [16]

① 形而上学	② 詩学
③ 万学	④ 政治学

- [17]

① 内在	② 超越
③ 理想	④ 現実

- [18]

① デュナミス	② ウーシア
③ エネルゲイア	④ エイドス

- [19]

① 現実	② 理想
③ 観想	④ 蓄財

- [20]

① 国家	② 名誉
------	------

③ 権力

④ 社会

- [21]

[① ニコマコス倫理学	② 自然学
	③ 政治学	④ 論理学

問2 下線部(a)に関して、アリストテレスの自然観として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[22]

- ① 原子の集合離散が万物を生成展開させる。
- ② 機械的原因が万物を生成展開させる。
- ③ 万物は可能態を目的として生成展開する。
- ④ 万物は現実態を目的として生成展開する。

問3 下線部(b)に関して、幸福と訳されるアリストテレスの術語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① プロネーシス
- ② エウダイモニア
- ③ アウタルケイア
- ④ カタルシス

問4 下線部(c)に関して、知性的徳の内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[24]

- ① 機知
- ② 勇気
- ③ 矜持
- ④ 思慮

問5 下線部(d)に関して、アリストテレスが用いている中庸の例の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[25] 【2007年本試験】

- ① 恐れるべきものとそうでないものを正しく判断できるように知的訓練を積むことで、勇気のある人になる。
- ② 金銭や財に関して、必要以上に惜しんだり浪費したりしないよう習慣づけることで、おおらかな人になる。
- ③ 神の知をもっていないと自覚することで、最大の無知から解放され、人間にふさわしい知恵を得ることができる。
- ④ 極端な快楽と極端な禁欲を避けながら、静かな修道生活を送ることで、心の平安を得ることができる。

問6 下線部(e)に関して、アリストテレスの「配分的正義(分配的正義)」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[26] 【2009年本試験改題】

- ① 各人の業績を精査し、それぞれの成果に応じて報酬を配分すること
- ② 加害者を裁いて罰を与え、被害者に補償を与えて公平にすること
- ③ 知性的徳を備えた人が習性的徳を備え、完全に正しい人になること
- ④ 法的秩序を保ち、人間として正しい行為をする状態に市民を導くこと

問7 下線部(e) に関して、アリストテレスの思想に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[27]【2006年本試験】

- ① 互いに異なる国々の慣習や文化を比較して、自国の諸制度に合わせて取り入れる調整的正義を説いている。
- ② 共同体的存在である人間が、社会における役割分担を推進するために必要とされる配分的正義を説いている。
- ③ 取引や裁判などにおいて、各人の利害や得失の不均衡を公平になるように是正する調整的正義を説いている。
- ④ 理性の徳としての知恵、気概の徳としての勇氣、欲望の徳としての節制が均等である配分的正義を説いている。

問8 アリストテレスの社会思想に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[28]【2013年追試験】

- ① 人間はポリスを形成するように生まれついた存在であるので、人間本来の善さを実現するためには、共同体の一員として生きる必要がある。
- ② よりよい政治的支配を実現するためには、ポリスにとって何が善く、何が正しいかについて、真の知をもった哲人による政治が必要となる。
- ③ ポリス、民族、階級といった社会的な制約を超え、人間は誰もが普遍的な理性を分かちもつ世界市民として活動する必要がある。
- ④ 人間は万物の尺度であるので、ポリスの秩序を形成していくためには、個々人の多様な価値観を包括する寛容な社会の実現が必要となる。

問9 アリストテレスが人間固有の働きの中でも最高の働きと評価する「テオリア」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[29]【2004年本試】

- ① テオリアとは、厳密な論証・推論としての理性の働きである。
- ② テオリアとは、主に制作活動にかかわる理性の働きである。
- ③ テオリアとは、原理を直観的に把握する理性の働きである。
- ④ テオリアとは、主に行為・実践を導く理性の働きである。

問10 三段論法とは二つの前提が真であれば必然的に結論が真となる形の推論であるが、推論の形式として間違っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[30]

- ① { [大前提] すべての動物は死ぬ。
[小前提] すべての人間は動物である。
[結論] すべての人間は死ぬ。
- ② { [大前提] すべての音楽家は芸術を愛するものである。
[小前提] すべての作曲家は音楽家である。
[結論] すべての作曲家は芸術を愛するものである。
- ③ { [大前提] すべての人間は動物である。
[小前提] すべての人間はほ乳類である。
[結論] すべてのほ乳類は動物である。
- ④ { [大前提] すべてのタヌキはほ乳類である。
[小前提] ポン太くんはタヌキである。
[結論] ポン太くんはほ乳類である。

第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 20）

(a)キプロスのゼノンによって創始されたストア学派は、(b)「自然と調和して生きる」ことを理想と考えた。自然は、普遍的な理性の法則によって支配された世界であり、人間にもこの種子が宿っている。そして、自然をつらぬく法則と一致するように理性的に意志をはたらかせることによって、魂の内的な調和の状態が得られる。これは、死の恐怖や怒り、驚きなどの [31] に動かされることのない、まったく自由な (c)アパテイアの境地にほかならない。この境地こそ人生の目的であり、幸福すなわち最高善である。この立場を禁欲主義という。これは、理性によって心の安らぎを保ち、自足することが幸福であるという考え方であり、また、理性をもっているかぎり人間はすべて世界市民として同胞であり、平等であるという思想である。この [32] 主義は、のちのキリスト教や、さらには近代の自然法思想にまで影響をあたえることになった。

ストア学派の禁欲主義に対し、エピクロスは快楽が最高善であり、それを追求することのなかに人生の目的としての幸福が見いだされると考えた。この立場を快楽主義という。しかし、エピクロスは、たんに瞬間的で感覚的な肉体の快楽を求めたのではない。それらは、外界への依存によって得られ、結果的には苦痛をもたらすから、真の快楽ではない。真の快楽とは、肉体の苦痛も魂の苦悩もともなわず、すべてにおいて満足感を得ることである。ここにこそ、肉体や(d)死の恐怖にわずらわされない [33] があり、欲望に支配されない自己充足がある。このような永続的で安定した精神的快楽を求めた彼は、「 [34] 」と説き、「エピクロスの園」といわれる学園を開いた。そこは、彼と同じ理想を求める人々が性別や身分を超え、節制と勇気と思慮にもとづいて生活する友愛の共同体であった。

この二つの学派の考えは (e)ローマ人によって継承された。とくにストア学派からは、共和政末期から帝政期にかけて、『自省録』をあらわした [35] らが輩出した。

問1 文章中の空欄 [31] ～ [35] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [31] [① ピュシス ② ログス
 ③ パトス ④ ミュトス

- [32] [① 共同体 ② 世界市民
 ③ 功利 ④ 個人

- [33] [① アウタルケイア ② アパテイア
 ③ アタラクシア ④ アノミー

- [34] [① 隠れて生きよ ② 自然に従え
 ③ 汝自身を知れ ④ 魂を優れたものにせよ

- [35] [① セネカ ② エピクテトス
 ③ キケロ ④ マルクス=アウレリウス

問2 下線部(a)に関して、キプロスのゼノンが学んだこともあるキュニク派についての説明として最も適当なもの、下の①～④のうちから一つ選べ。[36]

- ① 社会規範を重視し、共同体としてのポリスを支えるために、正義や友愛などの倫理的徳が必要であると考えた。
- ② 社会規範を重視し、国民共通の利益を目的とする政治が正しい政治であるとして、政治意識の向上に努めた。
- ③ 社会規範を蔑視し、自然現象の探究のみが幸福への道であるとして、公的生活の煩わしさを避ける生活を求めた。
- ④ 社会規範を蔑視し、自然に与えられたものだけで満足して生きる人生を理想とし、無欲、無所有こそ幸福の要件であると考えた。

問3 下線部(b)に関して、「自然と調和して生きる」とは何を意味するのか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[37]【2010年本試験】

- ① 人間の理性を正しく働かせ、自然を貫く理法と一致することで、心を乱されることなく生きよ、という意味
- ② 感情に左右されやすい人間の理性を離れ、自然を貫く理法に従うことにより、心の平安を得て生きよ、という意味
- ③ 文明化された都市においては理性的な判断を感ずるものが多いため、自然の中で魂の平静を求めて生きよ、という意味
- ④ 人間の理性を頼みとして努力をするのではなく、自然が与えるもので満足することを覚えよ、という意味

問4 下線部(c)に関して、ストア派のアパテイアの説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[38]【2013年本試験】

- ① 自然に従って生きることで、魂が完全に理性的で調和したものとなり、欲望や快樂などの情念によって動かされない状態。
- ② 情念や欲望が理性の命令に聞き従うことで、魂の三部分間の葛藤や分裂が克服され、心が全体として理性によって制御された状態。
- ③ 過剰な情念に満たされることと、情念に心が少しも動じないことの中庸として見いだされる、有徳な人間にふさわしい適度な情念をもった心の状態。
- ④ 苦しみや悲しみなどが取り除かれて、心のうちに快樂が得られることによって、魂が浄化された平静な状態。

問5 下線部(d)に関して、エピクロスがとった死に対する姿勢についての説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[39]

- ① われわれは死ねば生命なき原子へと解体するだけである。
- ② 死後の懲罰などを恐れて不安に苦しむ必要はない。
- ③ 我々が存するかぎり死は存せず、死が現に存するときにはもはやわれわれは存しない。
- ④ 死を運命として理性的に受け入れ、感情に流されないことが大切である。

問6 下線部(e)に関して、アパテイアを意味するラテン語を、次の①～④のうちから一つ選べ。[40]

- ① アニュスデイ
- ② ニルアドミラリィ
- ③ イマーゴデイ
- ④ ペルソナ

第5問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 16）

青年が自己を形成し、自分らしい生き方を実現していくための大切な要因として、アメリカの心理学者 (a) エリクソン は「アイデンティティの確立」をあげている。同様に、それぞれの発達段階で、私たちがどのように人とかかわってきたかが、アイデンティティを確立していくこの青年期の過程では、重要な意味をもってくる。アイデンティティの確立のためには、社会集団のなかで他者によって自分の存在が認められ、集団のなかの一員であるという自覚をもって、責任のある行動をとることが不可欠である。ところが、同性や異性とのあいだに親密な関係が生まれず、集団のなかでの自己の役割がわからなくなると、青年は自己を見失い、精神的な危機におちいる。これをエリクソンは、アイデンティティ [41] の危機とよぶ。

このように、自己を見失いがちになる青年期ではあるが、この過程で、さまざまな課題を自分の力で達成していくことにより、成熟した人間になることができる。心理学者たちがあげる青年期の発達課題にほぼ共通していることは、身体的変化への適応、両親からの精神的な独立、情緒的な安定を得ること、職業観・人生観の確立などである。たとえば、アメリカの社会心理学者 [42] は、成熟した人格として、自己感覚の拡大（自己中心的な興味や活動を去り、自分以外の人間や事物に関心や愛を寄せること）、自己の客観視（自分の能力・資質や目的・欲求、自分についての判断などを客観的に洞察し認識すること）、人生観をもつこと（自己の拡大と客観視を統合して、統一的な人生観を育むこと）などをあげている。

これらの課題のすべてを青年期に達成することは困難であり、なかには生涯を通じてはじめて達成できるものもある。しかし、私たちが発達課題に積極的にとりくみ、その達成につとめることは、これからの人生に大きな意義をもたらすことになるであろう。

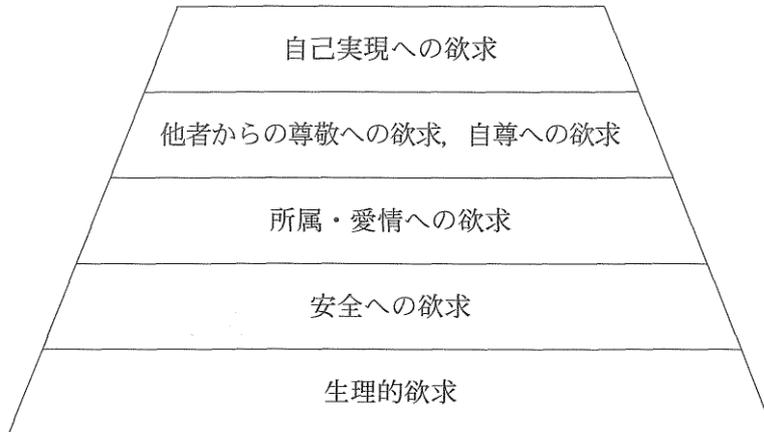
伝統的な種族社会では、子どもをおとな社会に受け入れるために、(b) 通過儀礼 が行われることが多かった。

現在私たちが考えるような青年期が注目されるようになったのは、20世紀にはいつてからである。エリクソンは、青年が将来の準備期間として、おとなとしての社会的責任や義務を猶予、または免除されることを [43] とよんだ。たとえば、大学生がわざと卒業を延期して就職をしないという現象が見られる。こうした現象は、自分の社会的役割を求めても簡単には発見できず、何をしたらいいのかわからないまま、卒業して会社など帰属や忠誠を強いる集団の一員となり、おとなとして自我を確立させなければならない状態にはいることを延期しようとする心理から生まれると考えられる。青年のこうしたあり方は、義務の遂行の猶予期間にとどまろうとする者という意味で、[43] 人間とよばれる。

ユダヤ人の精神分析学者 [44] は、第二次世界大戦中にナチス - ドイツのアウシュヴィッツ収容所での生活を体験した。著書『夜と霧』のなかには、強制収容所での大量の死は、ナチスの行う「処刑」によるものだけではなく、いつか家に帰れるだろうという希望がかなえられないことに失望し、落胆し、抵抗力を失っていったこともその原因のひとつであったと述べられている。希望を見失った者はストレスに蝕まれやすく、ときには死にいたる、というのである。

問5 次の図はマズローが欲求の階層的構造に着目して提唱した理論の内容を表している。図に示されているマズローの理論では、下位にある欲求が満たされて初めて、その上位にある欲求が喚起される。この理論から言えることとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[48]【2010年追試験】

図 マズローによる欲求の階層



マズロー『動機づけとパーソナリティ』に基づき作成。

- ① 周りの人たちから認められたいという気持ちが満たされることは、自己実現への欲求の基礎となっている。
- ② 愛情に満たされた関係性のなかで生きていたいという欲求は、飢えや渴きを満たしたいという欲求と同じくらい基本的な欲求である。
- ③ 自尊の感情を高めるように他者に働きかければ、所属・愛情への欲求や、安全への欲求、生理的欲求も同時に満たされる。
- ④ 安全が確保されていないような状況であったとしても、自己実現への欲求を高めるということは十分に可能である。

